

小林：大日方さんから、なるほどなと思った点があり、今の時点で理解していることを例え話を交えて話させていただくと、仲間と話すのですが、ボランティアをやっている人たちはそれが楽しくなってボランティア病になる。やっている人が、そばのやっていない人をなじる、ということがある。ボランティアをやる人は、ボランティアをやるのが目的となってしまう、理念上の間違いがあるのではないかと思う。ボランティアをやってもらっている人は、助かっているの、一切非難しない。でも、真髓の話をする、職業奉仕の理念に基づいて行わなければならない本来プレーンでクリーンなものではないはずだと思う。エゴイズムでやっているとなると、日本の社会をかたちづけてしまっ、今の若者達もそれを踏襲していつてしまう。現実にもそういう姿になってしまっている。60年かけて作ってしまったこの時代を明治時代の気合に満ちた世の中に戻すには60年かかるだろうといわれている。物事を思想の中でつかさどる理念というもの、ものを正しい本来の方向に導き治すということ、これを我々ロータリーの人間が集まって、お互い勉強していくというのが、職業奉仕の基ではないかという気がする。もどすことをロータリーがやっていくというのがロータリーの役割ではないか。ビジネスでは、お金と名誉がかかると人格がかわる。ある意味では、ロータリーがかかると理念から外れるのかな、と考えていました。そんなことを考えながら皆様の話を伺っていました。

河邊：私自身も会社の経営をしていて、会社を預かる人間として、利益をだし納税し社会貢献することが大事だと言いつつ、社員の幸せも考えなければいけない。そんな中で、社会奉仕、職業奉仕が自分の中ではわからないのですが、できる範囲でやっていきたいと思います。私はこれからの子ども達を育てることをしたいと思っており、それがどう繋がるかわからないが、これから勉強してがんばりたいと思います。

竹本：2年ほど前にインターンシップを行い、これが職業奉仕と考えていたが、これは社会奉仕と言われると、頭のなかに霞がかかってしまっている。エリアでみつけないのではなく、俯瞰でみてはどうか。人間としては一緒なのだから、エリアについても、しっかりとこない部分がある。

清水：IBMに努めていたが、IBMは倫理規定が非常に厳しい。ビジネスコンタクトガイドラインという小冊子があり、毎年2万人の社員に読んでもらい、サインをさせる。そのサインが一人でも落ちていると、ラインマネジャーに報告される。それに違反するとどうなるかという、IBMの場合、例として「未発表製品を匂わせて営業活動をしてはいけない」これに違反して降格、くびになった人はかなりの数。刑罰ではなく、IBMの社内規定違反でそういうケースがある。実際には、営業は売りたいと思う。そういう場合は、きちんとした理由をもって社内で承認を得られれば良いということになっている。きちんと手続きをとったうえでこのことで厳しい。そういうことでいえば、4つのテストを自然に受け入れられる。日本語になると、公平かというより公正かのほうが良いような気がする。今いる事務所には女子が二人いて、一人は社員で一人は派遣。同じように公平にものを言ったり仕事をさせると、おかしな話になる。それは公平ではないかもしれないが、公正ではあると思う。

庄司副会長：入会して13年目ですが、いまだに職業奉仕がわからない。なぜかという、英語を日本語に翻訳しているということがあり、読めば読

むほどわからない。4つのテストの4. みんなのためになるかどうか、というのは私なりに、世の中のためになるか、と解釈している。職業奉仕なのですが、私なりにシンプルに解釈したほうが良いと思うので、自分では、倫理観に基づいて、自分の職業を通して世の中のために奉仕貢献をして、その対価としてお金をもらっている、としてシンプルな考え方をしています。不動産賃貸業をやっているが、会社の資産を社会のため、世のために提供して、その対価として賃金ももらっていると解釈している。したがって、より高い賃金を請求したりはせず、相場をやりくりしております。社会奉仕ですが、大学のOB会があるが、阿佐ヶ谷の駅前を清掃したりと他のところで奉仕活動をしている。

高須会長：私は建設の工事会社であるが、お客様によるこんでもらえるような、真心をこめた工事をして、誠心誠意対応していることと社員に言っている。ロータリーで学んだことを会社経営に使用してもらっている。建設業は、ゼネコン問題とかあり、社員に倫理規定をカードにもたして、何かの行動をおこすときに気に留めるようにしてもらっている。職業奉仕の倫理観をもった人の集まりが、平和な世の中に繋がるのかなと思った。そのためにロータリーは会員を増やそうとしているのかなと思います。競争の激しい中で、誠意だけでは業績があらならないということもあるが、仕事を通じてお客様に喜んでもらえるよう努めていきたいと思います。

西澤：奉仕というのは、自分が身をきれば奉仕なのか、時間をとれば、金が行けばいいのか、奉仕自体がよく理解できない。その辺はいいか、奉仕としては近いのは貢献であるが、それぞれ解釈があると思う。

庄司副会長：それでは、そろそろ時間となりましたので、これで協議会を終わりにします。ありがとうございます。

※アンケート結果は次回掲載いたします。

### 5月行事予定

4日(金)	休会	
6日(日)	ガバナーナイト	18:00~21:00 デュシタニバンコクホテル
8日(火)	火曜会	18:30~ ANA インターコンチネンタル東京 MIXX バー&ラウンジ
11日(金)	第1207回例会	卓話：「日本の食の現状と将来」 農林水産省水産技術会議事務局 研究開発官 藤村 博志 氏
13日(日)	憩いの広場 落成贈呈式	陸前高田市「憩いの広場」
14日(月)	地区 親睦ゴルフ決勝大会	8:30~ レイクウッドゴルフクラブ 西コース
18日(金)	第1208回例会	卓話：「アーチンのロシアと日本」 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 常務理事 宮田 謙一 氏
25日(金)	第1209回例会	
29日(火)	地区会員増強・維持セミナー	ハイアットリージェンシー 東京 15:00~17:30



NO.1179 / 2012. 4. 27  
**東京赤坂ロータリークラブ**  
 例会日/毎週金曜日12:30  
 例会場/ANA インターコンチネンタルホテル東京  
 Tel 03-3505-1111  
 事務局/〒107-0052東京都港区赤坂2-19-8  
 赤坂2丁目アネックス3F  
 Tel /03-3505-5976 Fax /03-3505-6004  
 E-mail / akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp  
 URL / http://www.akasakarotary.com/

## Weekly Report 東京赤坂ロータリークラブ週報 「未来に向かって広げよう心の絆 赤坂ロータリークラブ」

2011~2012年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ/高須康有会長

●本日の例会 / 2012年4月27日 第1206例会  
 卓話：「北朝鮮の近況について」  
 早稲田大学国際教養学部 教授  
 元毎日新聞記者 重村 智計 氏

●前回報告/2012年4月20日 1205回例会  
 第5回クラブ協議会  
 テーマ：「職業奉仕について」



会長報告  
 新会員入会式  
 河邊 幸夫 氏

社会奉仕委員会 (尾関委員長)  
 4月16日武蔵国分寺 RC 20周年式典出席しました。その折、陸前高田 RC 会長伊藤孝氏、佐々木松男氏とお会いし、4月18日 NHK ニュース9の取材の件を伺いました。4月18日 NHK ニュース9で「千の風、希望の木」のテーマで陸前高田の松原が紹介されました。

親睦活動委員会 (清水委員長)  
 5月の火曜会は5月8日です。連休後すぐですが、是非御出席下さい。(36FL MIXX バー&ラウンジ)

石井謙次：  
 河邊さん入会おめでとうございます。皆さんチャンコ玉海力、おいしいですので、是非お店の方にお越し下さい。

●次回予告/2012年5月11日(金) 第1207例会  
 卓話予定：「日本の食の現状と将来」  
 農林水産省 水産技術会議事務局  
 研究開発官 藤村 博志 氏

※5月4日(金)は、休会です。

### 新入会員の紹介

河邊 幸夫 君 (Kawabe Yukio)  
 2012年4月20日(金)入会  
 職業分類：日本料理  
 生年月日：1966年7月16日  
 事業所：株式会社玉海力  
 役職名：代表取締役  
 所在地：〒150-0012 渋谷区広尾  
 5-4-11 ベルナハイツ 4A1  
 紹介者：石井謙次 吉岡琢磨

### 洪 萬鈞さんとの懇親会

13日の卓話者である洪萬鈞さんは、我がクラブの卓話の講演のためだけに韓国から来ていただきました。折角のお話が30分だけは物足りないということで、洪さんを囲んでの懇談会が、夕方6時半から例会場3Fのシャンパンバーにて行われました。急遽の開催にも関わらず多数の参加者を得て、また、日本に留学中のご息も途中から加わり、忠清南道の話題を中心に熱く語り合うことができました。(村山記)

参加者：洪さん、ご子息、高須会長、尾上幹事、尾関、飯島、西澤、岩上、竹本、入沢、清水、朴、村山

4月20日(金) / 8件 16,000円  
 累計 981,000円  
 多額の寄付を有難うございました。

河邊幸夫/新会員になりました。宜しくお願いします。  
 石井謙次/河邊さん、入会おめでとうございます。清水寛/5月12日の私どものコンサート、チケットは残り少なくなりました。まだあります。よろしく。松本さんニコニコ御苦勞様。西澤民夫/赤坂カルテットが新しい曲に挑戦します。皆様楽しみにしてください(耳栓はしないように)。松本さん御苦勞様です。関陽一/お陰様で二人目の子供ができました。年末あたりは忙しくなりそうです。入沢頼二/松本さん、ニコニコ御苦勞様です。今年御社所属のオリンピック代表選手は何名になりそうですか。期待してます。尾関武男/松本さんニコニコ御苦勞様です。松本智/たくさんのニコニコ有難うございました。

出席報告：会員43名/出席27名・欠席16名  
 ビジター：F.Xソエナル(東京RC) 計1名

日時：2012年4月20日(金) 13:10～14:30  
 場所：ANA インターコンパネル東京 B1「オーロラ」  
 出席者：高須、庄司、松本、岩上、尾関、入沢、橋本、西澤、吉岡、柴本、佐藤仁、小林、河邊、石井、竹本、清水、大日方、飯島、尾上 計 19 名

**高須会長**：クラブ協議会ご出席ありがとうございます。「職業奉仕」をテーマとする協議会を暫く開催していないため、今回は飯島職業奉仕委員長をはじめとして無理を言いました。ありがとうございます。昨今有名企業でさえ、本来ないような不祥事もあり、大変危惧しており、今日のクラブ協議会で色々な意見をいただきながら、ロータリーとしての職業奉仕としてどうあるべきか、皆様の会社経営についてもロータリーで培ったことを活かされてはいかかかと思ひ、今日のクラブ協議会にさせていただきます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

**尾上幹事**：まずは、大日方さんのほうから社会奉仕についての説明をお願いいたします。

**大日方**：ロータリークラブは、親睦と奉仕の2本柱で、クラブを活性化し活発な活動することです。活動する一番の狙いは、地域に貢献することです。奉仕には、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕と5つの奉仕があり、その中心が社会奉仕と職業奉仕です。では、社会奉仕と職業奉仕は別のものなのか、一体のものなのか、というのがポイントになります。よく言われているのが、社会奉仕はわかるが、職業奉仕は難しいというイメージがあり、職業奉仕は勉強しなくてはいけないということになる。では、どう違うのかということになる。社会奉仕は、コミュニティーサービスという。社会という漠然とした意味ではなく、地域という意味で、地域に対して貢献するのが社会奉仕。社会奉仕は行動する、アクション。職業奉仕は理念、考え方。具体的な例では、職業奉仕としているインターンシップは、アクション、行動なので、本来は社会奉仕である。職業奉仕は理念であり、それをどのように活かしていくこと、それぞれの仕事場で職業人として活かしていくこと、そういったことを支える理念が職業奉仕である。社会奉仕については、職業人としての専門性と、それぞれの趣味をいかして社会に貢献、活動することが社会奉仕の求めるものである。つまり、理念を行動にする、社会奉仕になるという基本的な区別がある。なかなか理解されないのは、職業奉仕にのみスポットをあてて議論をしているからではないかと思いますが、こういう仕訳があるかと理解していただけたら嬉しいと思います。コミュニティーサービスをどうやっていくかという、ロータリーの社会奉仕活動は曖昧になっている。ボランティアと同じイメージとなり、混同してしまっている。普通のボランティア活動だとロータリーの特性が出せない。ロータリーの特性は、コミュニティーサービスであり、専門的な知識や経験をいかして貢献していくことである。コミュニティーサービスを徹底していくと、少し極端な例ですが、駆け込み寺のような機能、地域で困っていることあったら、ロータリークラブに相談しようとなり、ロータリークラブに相談すれば何かヒントを与えてもらえる、何か紹介してもらおう、ということになると地域密着になる。社会奉仕は地域密着にならなくてはいけません。そのベースになっているのが職業奉仕であると、考えている。次年度は、こういうコンセプトを地区としても、掲げたいとしている。次年度は、地区が自ら活動せず、各クラブを支援する活動をしよう、ということにしている。もう一つ、地域のニーズ

をつかむことが必要。こちらから探ることも必要で、一人一人が問題を捉えることが必要です。その一番の基になっているのが、職業人としての専門性が拠り所でないかな、と思っています。

**尾上幹事**：大日方さん、ありがとうございます。職業奉仕だけをとらえるのではなく、社会奉仕との関連付けで考えれば、少しわかりました。この後アンケート等もありますが、大日方さんの説明をきいて何かございますか。

**西澤**：いまのお話でよくわかりました。ありがとうございます。コミュニティーのニーズを吸い上げるとなると、その地域に住んでいる人が一番適しているのかも知れないが、私のように、職場と自宅が別である、地域とロータリーに入っている人の分離があり、それが1つの問題なのではないかと思うが、その辺はどのように考えたらよろしいでしょうか。

**大日方**：基本的な考え方と、特別な場合とは違う点がある。例にあげると、東日本大震災支援は、社会奉仕の考え方からすると社会奉仕でなくなってしまう。地域を超えてしまっているが駄目かとなると、そういうことではなく、別のテーマとしてやっていく。問題は、東日本の支援をやっているから社会奉仕活動はそれであり、というのが良くない。継続性のあるもの、特別なものはそれであり、一方で本来のことに目を向けなければならぬ。感性を持っていることが大切。例えば、路上が汚れているとか、常に眼を向け、問題を投げかけることが大切。

**尾関**：そういうことになると、ロータリーの奉仕は、きっかけを見つけることに集約している。そうすると、だんだん芽が育ち、どこかに移管していくということになるのでしょうか？

**大日方**：それを推奨している。手のかかかっていないところに手をかけてというように、きっかけを作って、皆が目覚めて、大事だとわかったら、それを推奨するのであれば別の組織をつくるのもいい。とにかくきっかけをつくること、非常に大事だと手続き要覧にも書いてあります。

**尾関**：こういう考え方になると、東日本大震災プロジェクト「憩いの広場」は高須年度で一応終了し、松原を守る会に委ねるというのは、そこで完結していいのでしょうか。

**大日方**：それが出来ればいい。原則と例外があって、継続性がなければだめということではなく、そこを拘り定規にするのではなく、基本を認識しておくことが大事。

**西澤**：神宮ロータリークラブの明治神宮を掃除する社会奉仕をやっていますが、当クラブも近くにあるお稲荷さんとかを掃除するという事は、社会奉仕になるのではないのでしょうか。

**大日方**：原則というと、それは安易。クラブとしては、自由にやって、いつも新しいことにチャレンジすると活性化するのではないかと思う。

**清水**：確かに、大日方さんのおっしゃるようなこともあると思いますが、風の子会の「障害者は外にしよう」についても、手続要覧によるときっかけを作った動き出したら、そこに委ねましょう、ということだと思いますが、実際は、寄付を頼りにされているので、手を引いてしまうわけにもいかない、そうなるかと委ねられない。だから継続せざるを得ない。地域については、ロータリークラブは、昔は地域性が厳しかった。でも今は緩くなってきたが、原則に戻って考えることは大切だと思う。

**石井**：ライオンズクラブに父が入っていましたが、毎年秋になると駅前献血をやっているのを見て、

我々のクラブも行動していかなくてはならない、と思いました。

**大日方**：社会奉仕を議論にとりあげたことはないの、取り上げて議論することが大事なのではないかと思ひます。

**尾上幹事**：今日は職業奉仕の理念を掘り下げて、みなさんにとっても為になる協議会になればいいな、と思っております。では、飯島さん、職業奉仕についてよろしくお願ひします。

**飯島**：資料のなかで、「奉仕の理論が職業及び人生における精魂、幸福の真の基礎である」としており、1927年に「正しい商取引の方法」を職業奉仕と呼ぶことにし、奉仕の実践内容をクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4項目ができました。1932年に「4つのテスト」が考案され、1987年に「職業奉仕における新方針」で、ロータリークラブとライオンズクラブに違いがありますということが書いてあります。職業奉仕は奉仕であり、では奉仕とは何かということですが、1923年に奉仕は「奉仕の哲学」であると考えており、哲学、倫理観とか基本的な概念をもった考え方から従って、「四つのテスト」にも言えるように、誠実に動きましょ、ということではないかと思ひました。

**尾上幹事**：職業奉仕は難しい。皆様各個人の理解の仕方があり、これが結論かというわけではないかと思ひますので、できれば「私」にとっての職業奉仕をうかがっていただければと思っております。

**西澤**：誠実にやっても失敗することがある。つまりプロとして誠実ではない。つまり、これは、プロとして誠実にやりますよね、という問いかけがあるのではないのでしょうか。

**大日方**：アメリカ的な考え方、イギリス的な考え方では違う。日本は天職という考えはない。私なりに、真実というものは、本当のことをいっているか、ということ。隠すということはあるかもしれないが、嘘をいうのはまずい、本当のことをいっているか、と考えている。

**岩上**：かつて飲食業をやっていたときには、嘘をいってはいけないと従業員に、よく言っておりました。出入りの業者に対しても、丁寧にするようにと従業員に言っていた。買う側も、貰う側も同等な立場になるように、とは言っておりました。4つのテストの「みんなに公平か」というと、全ての人に気持ちも愛情も公平にすることは、難しいなと思っております。これが出来るようになると真のロータリアンになれるのかな、と思う。職業奉仕ですが、理念ですので難しいと思うが、西澤さんもお話ししておりましたが、私自身も小さいころからキリスト教に親しんでおりましたので思うのですが、ロータリークラブの例えはキリスト教の神髄であると思ひます。職業の中で、かつて中世からの歴史からみると、拜金的な金があるかればそれでいいというスタイルがありましたし、大企業の崩壊問題、原発の事故についても、職業の倫理としてはとんでもないことをやっていると思う。ロータリアンのメンバーとしては、よく考えて、自分の生業として出す術を再認識する大事な理念ではないかと思っております。

**尾上幹事**：職業奉仕は、利益を追求してもいい。利益を追求することにより世の中に還元できるという考え方もあると聞いたことがあるのですが、その辺はどうかでしょうか。

**大日方**：「公平か」ということは誤解されるのですが、英語では「Fair」であり「公正」かということ。公正なやり方をしているか、儲かる人もいれば、損する人もいるので、そこをバランスとっているのがビジネスです。当然利益を追求し、Fairであるかということ。

**尾関**：職業奉仕は本当に難しいと思っていたが、ある意味単純かなと思つた。私の業界は、お菓子屋さんであるが、赤福事件がありましたか、消費と賞味を上手く利用し、消費者心理を利用したもの。これは、誠実に商売をしているのか、ということに尽きると思う。

ブランドを持った決定的な強みを持っているにもかかわらず、欲が働いたのだと思う。社会性の中にどこに基準を置かかということが、ロータリークラブで学ぶべき、自分を分かつしめるところなのかなと思ひました。近江商人の三方よし理論の考え方は、自分の適性のなかでどのように満足するか、そして社会に貢献してお返しするかということをやっていたら、日本というのは、本来4つのテストをやっていたのが昔の職業人なのではないかと思う。改めてこういっただけを勉強しようというものは、ましてアメリカから教わるうなんて、毛頭ありません。自分のなかで交通整理して、ロータリー活動を自分のなかに照らしあわせていくのは、いいのではないかと思う。

**入沢**：職業奉仕は理念という概念がでてくる。職業奉仕は、英語でいうと「Vocation」といい神の思召しという意味がある。本来、職業は自分で選ぶというよりも、社会から与えられた部分があって、社会の中で誠実に答えていくものであると思ひますが、それは、ロータリアンでなくても、どんな職業でも誰でもやっているものであって、ロータリアンは、若干高い志をもって、そういった人が集まったクラブだから、社会に対して良い奉仕活動ができる、という意味合いがあるのではと思う。誠実性だけだと、倫理規定ばかりだといくらでもあって、そういったものを超えてロータリアンはあると思ひます。

**橋本**：倫理観とはずれるかもしれませんが、地区協議会で学んだことがあります。ロータリアンが他とは違うのは、職業奉仕の存在があるからだということでした。ロータリアン同士の取引からスタートしたのがロータリークラブであるということでした。幹事の役割は、取引結果をまとめるということだった。ロータリアンとしては、クラブの中でやっていかどうかという節度の問題もあると思ひますが、ロータリーの目的は「親睦と相互扶助」であるという、お互い不足部分を補っていくことだと学んだ。やり方が過度になってはいけないと思ひますが、新会員はロータリーに入ってどんなメリットがあるかということも考えるのではないかと思う。友の輪が広がり、奉仕活動が広がるというだけでも十分なのかもしれませんが、入会のメリットは、行き過ぎた行動は問題だが、相互扶助的なものが存在してもいいと思ひます。倫理観とよく照らし合わせながら行動するという事ではないのでしょうか。

**尾上幹事**：仕事目的で入会することが悪いことではないが、それを前面にだすと周りが引く。ロータリー活動を真面目にやっているのと周りがみている、周りから仕事の依頼がくるのではないかと思う。

**柴本**：今までの職業奉仕の活動をみると、工場見学とかがほとんどで、やむを得なくそうになってしまう。本当は、会員同士が集まってどうこうではなく、自分のところで「4つのテスト」の精神に則ってやっていく。派手さはないが、奉仕の基本的な大事な問題であるが、委員会としてやっていこうと思うと、どうしてもこういっただけに思ひます。矛盾というか、これは永遠につきまとうと思う。だから、あまり深く考えても仕方ないと思う。でも根本的には、4つの奉仕に則って自分の職業に精一杯やっていく。旅行にいったときに、遊びばかりでなく、何か価値のあることをやっていくことが、職業奉仕の1つなのかな、と思ひます。